揖斐郡教育研修センター通信⑫　　R3.9.16

研修Ⅱ　ICT 活用に関する研修より

夏休みには各校で ICT 活用の研修Ⅱ取り組んでいただき、ありがとうございました。アンケートの集計結果を見ると A または B の評価をされた先生方が多く、研修が今後の ICT の活用につながっていくのでは感じました。

またアンケートに記入していただいた意見には今後の ICT 活用に生かしていける素晴らしいものがたくさんありました。こうした取組により、郡内の児童生徒の ICT 活用や ICT を活用した授業改善がなされていくとよいと思いました。

1　アンケートの集計

郡内で３７９人が研修に参加	A	B	C	D
①　研修の内容を通して今までの自分や学校の ICT の授業での活用について振り返ることができましたか。	２０５人	１６８人	６人	０人
	５４％	４４％	２％	０％
②　研修内容を通して ＩＣＴを活用した授業での指導や支援の仕方の知識等を得ることができましたか。	１８９人	１８０人	１０人	０人
	５０％	４７％	３％	０％
③　研修内容を夏休み明けからの授業で自分のかかわる児童への指導に生かす見通しがもてましたか。	１５６人	２０８人	１５人	０人
	４１％	５５％	４％	０％

1　自分の ICT 活用に関する実践の振り返りについて

- 今までの指導は受動的な活用が多かったことに気付くことができた。受動的な活動はステップ１なので、ステップ２の選択的活用、ステップ３の創造的な活用ができる指導にしていきたい。
- 自分の固定観念が邪魔をしてそこまで活用しきれていなかった。楽しく活用できるよう子どもたちとも話し合って、「善き使い方」を求めていきたい。
- 自分自身がまだ ICT を使いこなせていない。苦手感があるので、朝の会など授業以外で普段使いをし、タブレットに慣れていきたいと思った。苦手だからと避けることなく、試行錯誤して成果を共有していきたい。
- 担任の先生が今日計画したことを町の ICT 支援員と連携して教材づくりを具体にしたい。社会科や理科の授業で積極的に使っていきたい。
- 通級という立場から１回５分ずつでも年間を通して積み上げている何かがあると思った。
- 毎日タブレット読書やＥライブラリーアドバンス、web ラーニングをやっているので、ずいぶん操作に慣れてきた。２学期には、家庭で写真に撮ってきたものを元にしてプレゼンのような話す力を付けることに役立てていきたい。授業中に道具として活用できる方法を探していきたい。
- ＩＣＴの創造的な活用を意識して取り組みたいと思った。交流会では、スカイメニューのポジショニングという、自分が知らなかった活用法を聞いて興味がわいた。
- 学年部で交流することで、ICT の活用の様子を知れて、活用していきたいと思った。中学年は、タイピング学習が必要だと感じた。

2　ICT を活用した自分の今後の実践について

- 「活用する」の具体的な中身とどこを目指して進めていくのかが見えてきた。「セルフチェック」

「創造的思考」を実践していきたい。

- 「あれはだめ、これはだめ」という制約を作る指導から、子どもたちが自律的に活用していく指導に教師が意識を変えていく必要がある。
- 課題もあるが、現在のニーズに合ったものだと感じた。養教としては、視力低下が心配である。ブルーカット眼鏡を付けたり、目によい生活指導をしたりして、ICT を活かしていきたい。また、保健指導でも ICT を活用したい。

- 全てをＩＣＴにするのではなく、学びの中で必要な時に使える学びのパートナーとして学習できるように指導していきたい。
- ＩＣＴを活用すると、個に合わせた授業ができることがわかったが、自分自身がそれを使いこなしていく力を付けることが大変だと思った。知的学級へも積極的にＩＣＴを活用していきたいと思った。また、予定をＴｅａｍｓを使って共有する方法が、とても参考になったので、早速使っていきたい。
- ＴＥＡＭＳでパワーポイントを共有し、共同作業をする方法を知ることができたので、外国語の授業実践で活用していきたい。
- 1 人一端末により、児童がより主体的に学べるよう、私たち教師がＩＣＴの活用について研修し、授業に活かしていかねばならないと感じた。交流で、他の先生方から教えていただいた活用法を、一度で授業で実践したいと思う。
- 他の先生が実践している ICT の活用が聞けたので、やってみようと思った。また、児童が使っている e-ラーニングの見届け方を考えていきたい。
- ＩＣＴマップ，ＩＣＴ活用の授業例が参考になりました。
- 色々なアプリやサイトなどを教えて頂きありがたかった。移動にどうＩＣＴを取り入れるとよいかも紹介して頂けたので，こんなことをすればよいか学ぶことができた。自分どう取り入れたらよいか，何となくイメージすることができたが，不安もある。不安しかない。でも，勉強になりました。
- teams とロイロノートを活用したオンライン授業のイメージができた。
- ギガスクールが進み、学校の中のＩＣＴがだんだんと位置づいてきたからこそ、今一度、教員がどの・・自分自身がＩＣＴを使えていないことに気づいた。教科の学習に有効に活用できるように場所、角度、タイミングを考えて使用したい。
- ICT を活用することで、生徒の学びの幅がすごく広がるなあと思いました。指導する際には、積極的にチャレンジしていきたいです。

3　ICT を活用した実践をしていくときに大切になること

- ICT を日常的に効果的に活用していくことの大切さは理解できるが、子どもの判断で活用するためのルール・約束が身に付いていないと難しいと感じた。「ホワイトリスト」的なルール作りは勉強になった。
- 各教科で子どもたちに付けたい力、何を学ばせたいかを明らかにして、ＩＣＴを活用することが大切だと思った。
- 一人一台末端の使い方を段階ごとに教えていただけたので、１年生でも先ずは消費行動的課題を課すところから始めたい。算数の教室や校舎にある三角形を撮影する活動はすぐにできる。また、低学年からキーボードを使った文書入力なども取り入れいきたい。
- 「失敗の許容」がされやすい末端の「普段使い」を子どもたちに活用させていくことが大切だとわかった。教師が子どもたちに末端を使わせる活動から、末端を活用できる活動に変えていきたい。タブレット使用のルールを前向きなものにしていった方がよいと分かった。
- 児童が ICT のルールを自律的にチェックできるようなガイドラインを設けたいと感じた。

- 一人一台末端の使い方を段階ごとに教えていただけたので、１年生でも先ずは消費行動的課題を課すところから始めたい。算数の教室や校舎にある三角形を撮影する活動はすぐにできる。また、低学年からキーボードを使った文書入力なども取り入れいきたい。
- 各教科での積極的な活用とともに、休み時間や家庭においても、教科書、百科事典、参考書、辞書として手軽に活用できるようになっていくことが大切。教科書の内容を指導しきらなければならない中、ＩＣＴを上手に活用する必要がある。
- タブレットの利用について教師からの指示ではなく児童が自ら選んで使用することや、授業以外の

場面でも日常的に利用できるという今までのコンセプトの違いに「目から鱗」が落ちる思いがした。児童自身が本当に必要を感じて主体的に使用することが大切だと思った。

- ＩＣＴ支援員（外部）と教職員の連携をどう進めていくかを考えていく必要がある。
- タブレットを普段使いさせ、自らも普段使いしていくことで、学習ツールとして抵抗なく活用できるようにしていく。「常に手元に置く」という環境にしていく。
- タブレットに対しての考え方（使い方や目指しているもの）が理解できた。一方で、「子どもが自由に」とか「保護者の理解」とかの話があったが、現場ではやることがとても多くタブレットのことについてじっくり話をしている時間を十分に取れないです。理論・理屈と実際の学校とでかなり差がありなかなか現実的ではない気もします。
- デジタル教科書をもっと導入してほしい。使ってみたい。デジタル教科書があれば、もっと授業が充実するのになと思った。
- 活用するための人的・物的環境の整備の必要性を強く感じた。「働き方改革」が強く求められる中で、便利で必要なツールとして活用できる技能をどう教職員に付けていくかが重い課題である。
- ＩＣＴの活用の仕方がわかれば、調べ学習や資料作成に便利になると思った。低学年のうちからタブレットを使わせて、主体的に活用できるようにしたい。
- これからＩＣＴ機器と共に生きていく子ども達が自律しながら有効活用できるようにするために、「できない子」にとらわれすぎず、「できる子」を増やしていけるような働きかけをしなければと思いました。
- ＩCT 機器を使わせるときに、ブラックリスト型からホワイトリスト型に切り替えていかないといけないことがわかった。
- ゲーム依存の影響という話題は、子供にも話をしていきたい。コロナで制限がかかる中ではあるが、できることを少しずつやっていきたい。
- 子どもに効果的な ICT 活用授業をするには、教師の ICT の理解と情報収集が必要だと感じた。児童が必要な情報は何なのか、正しい選択は難しいため、教師が事前に調べることが必要だと感じた。
- 本校では、夏休みにも ICT の活用を図り、「オンライン朝の会」を行った。今後も、家庭と学校がつながるようにしていきたい。
- タブレットの活用だけでなく、ICT 活用という点で、職員間での教え合いがあり、ずいぶんと助かっている。論だけでなく、実際に活用している職員の支援はありがたい。

4　ICT を活用した新しい授業の指導や工夫について

- 児童が自律的な学習者になるために、日常生活からタブレットを利用する機会を意図的に設定していきたい。
- 創造的思考を養うツールとして活用できるよう、使い方を模索したい。
- 教師が指示を出してタブレットを使うのではなく、児童が自ら「使いたい」と思ったときに使えるようにしないといけないと感じた。
- 「創造的思考」を育成するためのＩＣＴ活用について考える必要がある。ＩＣＴを活用することで、今までの授業の在り方も大きくかわる。
- 言葉の教室では、お手本の発音を録音して子に見せると、コロナ対策になると思った。
- 教科ごとに使用例があり、活用の幅が広がった。
- 養護教諭の保健指導の場でもＩＣＴを有効活用していけるようにしたい。
- 授業の中で、まず使ってみることが必要である。例えば、国語のスピーチ等で自分を客観視できるように動画をとったり、仲間からの評価を自分のタブレットに集約できたりすると有効である。交流の中で、やってみたいと思える実践があったので、ぜひ取り組みたい。朝の会など授業以外でも児童がタブレットを手に取りやすい環境にすることが大切だと学んだ。

- ＩＣＴを児童に主体的に使わせることの難しさを感じた。教師のＩＣＴ活用能力が低いことが大きなハードルだと思う。ＳＥをもっと活用できるとよいと思う。
- コロナ禍でタブレットの活用についてはリモート使用も想定されるので、この部分についても研修を進めていかなくてはならない。
- 中学生の発達段階として、プレゼン力を伸ばした活用ができるよう挑戦したい。
- ICT はあくまでもツールであり、そのツールを正しく使うためには、各々の判断力が不可欠となります。まずは「自律」を身に付けさせていく指導をしていき、生徒の人間性を高め、社会に出て正しく ICT を活用できる力を育成していきたいです。